

平成30年度事業計画

1 基本計画

わが国の雇用状況は、平成29年度中盤には有効求人倍率が1.65倍に達しました。この状況は、今後国際的に大きな変動がないと想定した場合、平成30年度も同様に推移するというのが大方の見通しです。

しかし、求人はあっても労働を担う労働力人口は、過去45年間にわたる出生率の減少と団塊の世代が70歳を超えることなどに伴い急激に減少しており、労働力需要に供給が追い付かない状況です。

このような状況を受けて、多くの企業や官公庁は、ここ数年で60歳以上の人も継続して雇用する制度を確立し労働力の確保を図ってきましたが、冒頭に述べたとおり、国全体としては労働力の不足が広範囲に見られるところです。

ちなみにこのことは、シルバー人材センターに入会する人の減少に直結し、放置すれば南部町・伯耆町のみなさまからの仕事のご依頼にもお応えできなくなる事態も生じます。

このため南部広域シルバー人材センターでは、会員のみなさんに新入会員の紹介をお願いするとともに、理事と職員がペアを組み入会の可能性のある人の家庭を訪問し、シルバー人材センターの説明、入会の勧誘、就業の斡旋などを行ってきました。

このことが功を奏して、毎年40人超の退会者があるなかで総会員数は前年とほぼ同数を保ってきました。平成30年度においてもこれらの活動に継続して取り組むことで、会員数の確保と拡大に向けて努力を重ねてまいります。

また、契約額を見ますと、受託事業（請負就業）の契約額は、平成29年度見込みが117百万円と対前年比ほぼ同額となっていますが、平成29年度は剪定や草刈り、草取り等の依頼件数が若干減少傾向にあり、これら分野に対して今後、就業開拓活動と併せて会員の確保を図ることで30年度は増額を図ることを目指します。

また地域においては、少子化による生産年齢人口の減少に加えて65歳以上の人口が南部町35.3%、伯耆町36.0%と増加傾向にあります。これらのことにより、前期高齢者が地域社会やそこに暮らす後期高齢者の暮らしを支えるという構図が一般的なものとなりつつあります。

それに伴い当センターでは、地域にお住まいの高齢の方で、農業や宅地の草刈り、お墓の掃除、家事などを自ら行うことが困難となった方々に対して、シルバーの就労を通じて今後とも支援してまいります。

南部広域シルバー人材センターは、「地域とくらしを守る」という使命を担う公益社団法人として、平成30年度も地域のみなさまの暮らしや産業などを支える就業活動を通じて、幅広い分野で会員のみなさまの力、組織の力を発揮し地域貢献を果たしてまいります。

2 事業実施計画

(1) 公益社団法人としての事業運営

公益社団法人に移行後6年目を迎える本センターは、今後とも公益社団法人としてふさわしい運営基準と関係法令を遵守した事業の運営に努め、活力ある高齢社会を支える地域の中核組織として、地域社会から従来以上に幅広い理解と協力が得られるよう信用性、公益性、透明性の高い事業運営に努めます。

併せて、公益社団法人の使命として、業務を通じて地域の課題解決や人々の暮らしを支える活動、地域産業の支援等にも積極的に取り組むことに努力を注いでまいります。

(2) 就業機会の拡大

平成29年度の受託就業（請負）契約額は対前年比とほぼ同額となっています。1の基本計画でも述べましたとおり受託就業は依頼件数が若干減少傾向を示しており、該当する分野に対して今後とも就業拡大を図ります。

労働者派遣事業は、平成29年度の契約件数、就業人日数は若干の増となっており、この水準を平成30年度も維持するよう努力してまいります。

本センターの経営を長期的展望に立って考えた場合、受注の拡大は常にセンター経営の基軸に据えなければならないことと考えます。このため、今後とも就業機会の確保については従来以上に力を入れた取り組みを継続します。

上記の具体的な取り組み内容は以下のとおりです。

- ① 平成27年度から派遣事業の実績で国の補助金が算出される制度が導入されたため、派遣就業の開拓には従来どおり継続して取り組みます。
- ② 加えて昨年度に引き続き職員は、日常の業務に就業開拓も取り入れ、企業や官公庁、学校、保育園、個人宅の訪問を実施します。
- ③ 開設後3年が経過したホームページの活用による、南部・伯耆両町エリア外からの受注の拡大につとめます。
- ④ 南部・伯耆両町のイベント等の機会を捉え、シルバー業務の周知を図ります。
- ⑤ 行政や学校、エリア内企業に対する企画提案を行います。
- ⑥ 新聞やテレビ、ラジオ等の媒体を活用し、シルバー業務の周知を図ります。
- ⑦ 広報紙によるシルバー業務の周知を図ります。
- ⑧ 一般家庭に対する訪問活動による受注の拡大を図ります。

(3) 会員の新規加入促進

会員数の確保は、シルバー人材センター事業の根幹をなすものです。発注者の多様なニーズに対応するためには、働く意欲のある会員の確保に努め、組織運営の安定を図ります。

平成30年度に実施を予定する活動は以下の通りです。

- ① 会員募集チラシの全戸配布。
- ② ホームページによる会員の募集
- ③ 役員及びや会員、職員による、会員勧誘活動
- ④ 新しい分野の就業開拓による新規会員募集
- ⑤ 南部・伯耆両町のイベントでの会員募集の周知活動
- ⑥ なんぶSANチャンネル、おにっ子テレビによる会員募集
- ⑦ 広報「南部シルバーだより」(年2回)によるシルバー活動の周知と会員募集
- ⑧ 入会説明会 毎月第3水曜日
- ⑨ 会員相互の親睦活動の支援(研修旅行、各種趣味サークル活動、スポーツ活動)
- ⑩ 女性会員拡大を目指した女性会員による研修会やイベントの開催
- ⑪ 就業を目的とした技能講習の開催
 - 1) 剪定講習会(庭木、果樹)
 - 2) 刈払い機講習
 - 3) ふすま・障子貼り講習
 - 4) 派遣会員を対象とした健康や就業上の技能向上を図る講習
 - 5) その他、シルバーの就業に必要な技能の講習

(4) 普及啓発活動

シルバー事業の理念、意義を地域の方々に広くご理解頂くために、南部町、伯耆町の全戸に配布する広報紙「南部シルバーだより(50号、51号)」を年2回発行します。

また、当センターのホームページを活用して普及啓発を図ります。10～11月には、南部・伯耆両町の公共施設の除草やせん定などのボランティア活動の実施、さらに南部・伯耆両町のイベントでの宣伝活動など、地域社会に向けて広く普及啓発活動を行います。

(5) 適正就業の推進

適正な就業形態については、平成23年度から労働者派遣事業の導入などを契機とし、請負と派遣を明確に区分するなど関係法令の一層の遵守に努めているところですが、引き続き、適正な就業形態を目指し、法令を遵守した就業を進めてまいります。また、会員に均等な就業機会を提供することにより、未就業会員の解消に努めます。

(6) 安全就業の徹底と会員の健康管理

「安全は、すべてに優先する。」を合言葉に、会員同士で日頃から声をかけ合うなど、就業途上や就業中の事故防止に努めます。また、広報を利用しての安全就業の呼びかけや理事、安全就業対策委員、安全就業推進員のパトロールによる個別指導を行うとともに年に1回、安全就業研修会を実施します。また、入会説明会時も安全就業研修を実施し、会員の更なる安全意識の高揚に努めます。

会員の健康管理については、町が行う集団検診を積極的に受診するよう勧めてまいります。

① 安全就業対策委員会の開催

安全就業対策委員による安全パトロール 年3回

② 理事による安全パトロール 年2回

③ 安全就業推進員によるパトロール 南部、伯耆地区ごとに月2回（4月～12月）

④ 職員による就業現場のパトロール 随時

⑤ 新規加入会員への安全就業研修 入会説明会時

⑥ 安全だよりの発行 年3回

⑦ 安全就業研修会（交通安全を含む。）年1回

⑧ 会員への健康診断のよびかけ

会費納入時に健康管理について聴き取りを行う。

(7) 会員の意識と技能の向上

シルバーの基本理念である、「自主・自立・共働・共助」について会員に周知を図り、会員として常に誠実な就業を心掛けるよう新入会員説明会などで徹底してまいります。

また、会員及び南部町、伯耆町在住の60歳以上のみなさんにシルバー連合会主催の各種講習会への参加を呼びかけるとともに、当シルバー人材センター独自に講習会を開催し、就業に必要な技能習得と後継者の育成に努めます。

(8) 事務局業務の効率化について

インターネット環境の整備による文書等の送受信の迅速化や低コスト化、インターネットバンキングの導入、受注から請求までの業務の電子化など、事務の効率化を図ってまいりました。これらにつきましては、今後とも継続して取り組み、利便性と効率化、迅速化の向上に努めてまいります。

(9) 会員の福利厚生

南部広域シルバー人材センターでは、公益社団法人への移行に伴い会員の親睦イベントへの助成ができなくなりました。今後は、会員の自己負担額ができるだけ少ない事業を工夫し、会員相互の親睦を図る活動を実施してまいります。

平成30年度目標

(1) 請負 (29年度は見込み)

	会員数 (人)	受注件数 (件)	就業延日人員 (人)	契約金額 (千円)
30年度 目標	400	3,000	24,000	120,000
29年度 実績	380	2,880	23,500	117,747

(2) 派遣 (29年度は見込み)

	会員数 (人)	受注件数 (件)	就業延日人員 (人)	契約金額 (千円)
30年度 目標	—	15	8,700	30,000
29年度 実績	—	13	8,650	29,800